

市町村別がん検診プロセス指標の公表について

標記調査結果について、千葉県ホームページで公表することとしたい。

1 プロセス指標の公表について

地域保健・健康増進事業報告の報告値を基に、各市町村の受診率、要精検率、精検受診率、精検未受診率、精検未把握率、がん発見率、陽性反応適中度のプロセス指標値を算出しました。

平成26年度（平成23年度分の結果）から当部会において検討し、県ホームページにおいて結果を公表しています。今年度は令和5年度分の結果について検討を行います。

資料4-2は、県のプロセス指標を経年で示した資料です。厚生労働省のがん検診のあり方に関する検討会で取りまとめた報告書「がん検診事業のあり方について」（令和5年6月）において、プロセス指標の新たな「基準値」が示され、令和7年度2回目の当部会で、これまで使用していた許容値*及び新たに示された基準値をまとめ、3つの対象年齢（全年齢、上限69歳まで、上限74歳まで）のプロセス指標値を算出することとなりました。

※「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について報告書（平成20年3月）」で示された評価基準

資料4-3は、全国、県、市町村別のプロセス指標をまとめた資料です。今年度から市町村のプロセス指標値を性・年齢別で、公表することにより、「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」の改善を図りたいと考えています。

2 令和5年度分の調査結果について

【胃がんX線】

- ・要精検率は、すべての年齢区分で基準値を満たしている。精検受診率、精検未受診率、精検未把握率、がん発見率、陽性反応的中度は、基準値を満たしていない。特に、50～74歳、50～69歳のがん発見率、50～69歳の陽性反応的中度が低い傾向にある。

【胃がん内視鏡】

- ・要精検率は、年々基準値に近づいてきており、50～69歳は基準値を満たしたが、それ以外の年齢区分は基準値を満たしていない。精検受診率、精検未受診率、精検未把握率、がん発見率、陽性反応的中度は、基準値を満たしているが、50～69歳のがん発見率、陽性反応的中度は基準値を満たしていない。

【大腸がん】

- ・要精検率は、すべての年齢区分で基準値を満たしている。精検受診率、精検未受診率、精検未把握率は、他のがん種に比べ最も低い。がん発見率は、全年齢、50～74歳は年々改善傾向にあるが、基準値は満たしておらず、50～69歳は特に低い。陽性反応的中度は、全年齢のみ基準値を満たすことができている。

【肺がん】

- ・要精検率は、すべての年齢区分で基準値を満たしている。精検受診率、精検未受診率、精検未把握率、がん発見率、陽性反応的中度は基準値を満たしていない。特に50～74歳、50～69歳のがん発見率が低い。

【乳がん】

- ・すべての年齢区分で要精検率、精検受診率、精検未受診率、精検未把握率は、基準値を満たしている。がん発見率、陽性反応的中度は、基準値を満たしていない。

【子宮頸がん】

- ・要精検率以外、基準値を満たしていない。特に精検受診率が大腸がんに次いで低く、20～39歳の陽性反応的中度が低い。